



## 会長に就任して

小野 勝次\*

このたび、わが日本オペレーションズ・リサーチ学会は、小林前会長をはじめとする関係者各位のご尽力によりまして、社団法人として体制を整え新発足いたすことを得ましたのは、まことにご同慶の至りでございます。新発足に当たりましては、会員各位のご推挙を受けて会長をお引き受けいたしました。学会の発展のために、会員各位のご協力を得て微力をつくそうと思っています。

わが日本オペレーションズ・リサーチ学会は、これまでに主として経営合理化の線からわが国産業界に対していささか寄与してきたと自負する思いは、会員各位におかれてもご同様のことと存じます。いばらの道を進まれた諸先輩のご貢献に心からの敬意を表するしだいであります。

しかし、オペレーションズ・リサーチは、現在なお発展の段階にあります。それどころか、発展の速度はいよいよ高まりつつあるように思われます。われわれもまた、大いに努力して発展の一翼を担い、1975年に開催の予定されている国際会議にも、誇らかにわれわれの成果を世界の学界に問いたいものと思えます。

この機会に、いささか私個人の考えを述べさせていただきます。環境汚染その他の公害に悩む現代社会、大組織の一員として個性を破棄するか体制から逃避するかを選択を迫られているかに見える個人生活、これらもまたなんらかの意味での合理化の産物であったことを思うとき、合理化を追及してきたわれわれとしては、深い反省を迫られていると思えます。私自身、極度に合理化された社会を空想したとき、とすれば自分はそういう社会に住みたくないという逃避的な気分になるのをどうしようもありませんでした。合理化とはよいものであるにしても、むずかしいものでもあるとしみじみ思えます。

それでは非合理性の導入の道を選ぶべきでしょうか？ 私にはそうは考えられません。生身の人間のつくる社会、組織であることを無視した合理性の一段上には、人間性に根ざす合理性があるにちがいないと私は考えています。われわれは合理性を追及しますが、合理性にはいろいろのレベルのあることを忘れずに、それぞれの合理性を追及しながらも合理性の階段をも昇って行かなければならないと私は信じています。われわれの現在直面しているいくつかの障害は、われわれにこの階段を一段昇れと示唆しているように思われてなりません。

一言現在の心境を率直に述べて、ごあいさついたします。

\* 名古屋大学名誉教授